

# 週刊 タバコの正体

タバコは有害で、吸わない方が身のためだと考えている人が多くなり、喫煙率は低下し続けています。君たちのように最初からタバコを吸い始めない人が増えているのに加え、「禁煙外来」と呼ばれる禁煙治療をうけられる病院で禁煙する人も着実に増加しているからです。

ところが、一方でコンビニでは左下の写真のようにレジの一番目立つところでタバコを販売しています。まるでタバコが目玉商品のような扱いです。人々の健康を害し命さえも縮めるような商品を、どうしてこのような目に付くところで大きく販売しているのでしょうか。

じつは、右下のグラフを見て下さい。なんとタバコはコンビニの主力商品なのです。売上の四分の一がタバコだとは驚きですが、そんなに売れるのだから売り場面積が大きくなるのも理解できます。つまり「タバコは売れる商品だから、目立つところで販売している」という事なのでしょう。

タバコを買うのは、ほとんどがニコチン依存症となっている人たちです。ニコチン依存症になると、常に手元にタバコが必要です。そんな人たちにとって、24時間営業のコンビニでタバコが買えるのは便利で有難い状況なのかもしれません。

でも、人々の健康を尊重すれば、タバコは売れない方が良いでしょう。君たちを含め若い世代がタバコを吸い始めなければ、いつか「タバコなんか売れないよ」と言われる時代がくるはずですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久

商品群別売上高構成比率推移  
(連結・チェーン全店、ローソン)



■ファストフード ■日配食品 ■加工食品(たばこを除く) ■たばこ ■非食品

Garbage NEWS.com から